

認定 NPO 法人かものはしプロジェクト

年次報告書

2013

FOR A WORLD WITHOUT
CHILD SEXUAL TRAFFICKING
AND EXPLOITATION

カンボジアレポート

5 years of Community Factory

「来てくれてありがとう、かものはし。」

インドレポート

Search for Justice

「次の被害者を出さないために。」



子どもが売られない世界をつくる
認定NPO法人かものはしプロジェクト

Photo by Kohei Shigetomi

2013年度のお礼とご報告

かものはしの 2013年度。

インドでは、試行錯誤しながら問題解決への戦略が描けつつある。

人身売買被害者の女性187人を支援し、100人以上の政府・NGO関係者と議論やネットワーキングを行い、3つの調査レポートを発行して、3つの支援モデルを現地パートナー団体と開発、現地パートナー7団体と7プロジェクトを行いました。インドの「子どもが売られる問題」は、規模が大きく背景も複雑で試行錯誤を繰り返していますが、その試行錯誤の中で問題への理解が深まり、解決への戦略も描けるようになりました。現地のパートナー団体との関係も強化され、今後の活動に確かな手応えを持っています。引き続き、2018年度までにマハラシュトラ州と西ベンガル州を結ぶインド最大の人身売買ルートにおける被害者を減少させることに挑戦します。

たくさんの女性たちと、5年目を迎えることができたカンボジア。

2008年にかものはしプロジェクトが始めたコミュニティファクトリーは、この5年間で大きな変化と成長を達成しました。今は120人もの女性たちを雇用することができ、本当に嬉しく思っています。それはかものはしが、女性たちを雇用するだけでなく、生活を豊かにするための色々なトレーニングを実施したからです。また、2008年の開始時には1ヶ月かけて売上げた金額を、今では1日で達成できるようになりました。そして2013年度も更なる大きな変化と成長がありました。私たちが現地化するための大きな一歩として、JICAの連携事業の実行が決まり、売上も前年比1.8倍と順調に伸ばすことができました。警察支援では、内務省とモニタリング評価事業を実施し、カンボジア警察の組織基盤強化に貢献しました。公益財団法人日工組社会安全財団さまからご支援を受け、日本の警察関係者を招聘し、カンボジア警察とともに社会安全に関する議論・指導を行うことができたことも有意義な機会でした。

日本では資金調達基盤・組織基盤ともに成長することができた

資金調達金額が1億円を超えました。サポーター会員は3,000人以上、ボランティア登録も550人以上となり、インドとカンボジアでの活動を支える基盤を成長させることができました。また、認定NPO法人の認定を受けることができ、NSR(NPOの社会的責任)活動も積極的に進めたことで、組織基盤はより盤石になりました。しかしながら、現在の活動の延長線上では今後推し進めたいインドとカンボジアでの活動計画を支え続けることが難しい可能性も見えてきています。2014年度は1億3千万円の資金調達と新たに825人の皆さまにサポーター会員として問題解決の仲間になっていただくことを目指します。

温かいご支援のおかげで、
現地で活動することが
できています。



理事長
村田 早耶香

皆さまのご支援のおかげで、2013年度もカンボジアとインドで活動を進めることができました。この問題の被害にあう子どもたちを早く減らしたい思いで、活動を進めております。

日本事務所はご支援くださる仲間を増やす役目を担っております。2013年度は新たに800人近い方が「問題を解決する仲間」として活動に加わってください、大変嬉しく思っております。たくさん講演を通して、多くの方に「子どもが売られる問題」について知っていただくことができました。講演の場で応援してくださる皆さまと直接お話をし、この問題に対するお気持ちを聴くことで、いつもとても励みになります。「活動に一層力を尽くそう」という思いになります。皆さまがお力をくださいましたことに、厚くお礼申し上げます。

皆さまの「子どもたちを守りたい」というお気持ちを、カンボジアとインドで形にすべく、2014年度も邁進してまいります。

山あり谷あり。
たゆまず歩みます。



副理事長
本木 恵介

インドでの事業を開始して2年が経ちました。七転び八起き、2013年度はそんな1年でした。インドにおいて「子どもが売れない社会」をつくる道のりは山あり谷あり、そして果てなく遠い道だと実感しています。ところが不思議なことに「必ずその社会をつくることができる」という確信は揺らぎません。転べば起こしてくれる仲間がいます。道に迷えばともに進むべき道を探してくれる先輩がいます。最前線には、危険を顧みず問題解決のために歩むインドNGOの人たちがおり、振り返れば、日本からこの問題に心を寄せ、支援して下さる皆さまがいます。そして、自分たちと同じような被害者をこれ以上出さないため闘い続ける少女たちがいます。千里の道も一歩から。インドでの問題解決が1日でも早く進むよう、たゆまず歩み続けます。

一緒に歩んでくださる支援者の皆さま、ありがとうございます。2014年度も一層励んでいきますので、これからもよろしく願っています。

積み重ねてきた
信頼と実績が
花をつけようとした1年。



副理事長
青木 健太

私が駐在するカンボジアの2013年度は、これまで積み重ねてきた実績と信頼が花を付けようとしている、そんな確かな息吹を感じる1年でした。

JICAの草の根パートナー事業の受託が決定し、日本警察のOBの方々を招聘した警察支援事業など、さまざまな連携が動き出しました。現地のNGOや行政、開発パートナー、国連機関などからお声がけをいただくことも増え、形になるプロジェクトも出てきたことを大変光栄に思っています。カンボジアに進出して10年、コミュニティファクトリーを立ち上げて5年と活動を重ね、少しずつ社会変革を起こしていることが、信頼を得ている証なのだと感じます。

コミュニティファクトリーにおいても、働く女性へのサービスを充実させることができ、売上も大きく成長。運営の自立にも大きな前進がありました。

カンボジアの状況を見つめながら、引き続き事業を進化させていきます。今後もよろしく願っています。

5 years of Community Factory

「来てくれてありがとう、
かものはし。」

コミュニティファクトリーが開設されてから、
2013年で5周年の節目を迎えました。
一人一人が困難を抱えて、
決して順調なことばかりではありませんが、
日本からの支援に支えられて歩んできました。

カンボジアレポート

2013.4.1-2014.3.31 CAMBODIA Report

文：カンボジア事業担当／亀山菜々子 編集：服部牧夫

かものはしがこの村に
来てくれて本当に良かった

2013年9月1日、コミュニティファクトリーは2008年に創業してから5周年の節目を迎え、記念式典が開かれた。貸し切りの大きなイベント会場には、総勢3000人を超える参加者が集まり、ほぼ満員状態。参加者はファクトリーで働く女性たち、スタッフをはじめ、女性たちの家族、地域の村長、村警察の人たち、教育省の方々、他のNGOメンバー、近くの病院・ヘルスセンターのスタッフ、アドバイザー、旅行会社の方、日本の学生団体「ゆるかも」メンバー……。皆、ファクトリーを応援してきてくれた人たちだった。

特にファクトリーを快く受け入れてくれ、長きにわたってサポートしてくださったのはクチャ村の村長だ。村役場の土地をかものはしに貸してくださり、さまざまなトレーニングやイベントも応援してくれた。「かものはしプロジェクトがこの村に来てくれて本当に良かった。女性たちが村で働き続けられること。これは村に住む大人にとって大きな安心となっているのです」村長のスピーチからは、コミュニティファク

トリーが村にとって欠かせない工房として、しっかりと根付いたことを実感できた。

2008年にファクトリー設立 わずか14人でのスタート

カンボジアの農村部では定職につくことはとても難しく、日雇いや季節労働を組み合わせてなんとかやりくりしている家庭が多い。そこで、「村に仕事を作り、村の女性が自分たちの村から通って働くことのできる職場をつくらう」というのが、コミュニティファクトリーが設立当初から目指している姿だ。村の女性たちが作った民芸品を販売し、得られた収益が家庭を支える給料として女性たちに渡される。現在、ファクトリーでは1200人を超える女性たちが周辺の村から働きにくる。今では、村の人たちや他団体から「あそこにあるファクトリーだね」と広く知られ、募集をかければ3倍くらいの応募者が集まる人気の仕事場となっている。しかし、ここまでくるまでの間はさまざまな苦勞が絶えなかった。

2008年の創業当初、竹やヤシの葉で作られた簡易な施設に、机とミシンが数台あるだけだった。わずか14人の女性がゴザを敷いて作業する本場に小さな工房だった。突然来なくなってしまう女性もいて、スタッフが女性の自宅を訪れて「生産に間に合わないからファクトリーにきて」と呼びに行くことも珍しくなかった。い草の染色も見よう見まね。毎回同じ色に染めることもなかなかできなかった。みんなで遅くまで働いて、なんとか納品に間に合わせていた。

高い離職率 きめ細かい対応で乗りこえる

最も大きな課題は、女性たちが簡単に離職してしまうことだった。ファクトリーの設備は年々整えることができたが、離職率の高さには2010・11年になっても頭を悩ませられた。親から「ファクトリーなんか辞めて家の手伝いをしなさい」と言われて退職する女性がいる。給与水準の高い隣国タイに出稼ぎに行ってしまったり、経済発展にともない給料が上がってきた別の職場へ移る女性もいた。少しでも楽な生活を願う女性たちが、ファクトリーを離れるのは自然な流れにもみえた。しかし目先の給料のことも考え、働いては辞め、別のところで少し働いては辞め……を繰り返しては、いつまでたっても生きていくための力を身に付けることはできない。

そこで、女性たちが落ち着いて働き続けられるように、きめ細かい支援をするカウンセリング体制を整えた。女性の家族がファクトリーの仕事を理解できるように家庭訪問も始めた。ワークショップを通じて、気軽に行われる隣国や都市部への出稼ぎがはらむリスクを伝えた。さらに識字教室などを開き、女性が自立して生きていくために成長できる場を実現していった。こうした地道な活動の結果、かつては30%を上回っていた離職率も、2012年には11%まで下がった。

現在、ファクトリーの中には40台近いマシンが並び、外には草織り機がファクトリーを囲むように並び、い草の選別、染色、



い草マットと布を縫い合わせるミシン縫いの工程では、作業の正確さとスピードが求められる。ミシン縫いの技術だけでなく、集中心、生産目標を達成する力、チームメンバーと助け合う力など、生産を通じてさまざまな力を養っている。

マット織り、カッティング、ミシン縫い、手縫い、検品……。それぞれの作業を担当する女性たちは楽しそうに手を動かし、流れるように商品が出来上がる。ファクトリーの横には、女性たちが勉強や食事、おしゃべりを楽しみ、スタッフが作業するサブオフィスのほか、お客さまが商品を購入できるショップもある。これまで積み重ねてきた成長の証が、そこにあるようだ。

ファクトリーで働く女性のテグ・モロツボは、5周年記念パーティーのスピーチで、ファクトリーで働き始める前後の生活の変化について話した。「ファクトリーで働く前は、毎日日雇いの仕事を探さねばならず、1日1日をなんとかやりくりする状態だった。今は楽しく識字教室にも通っています。コミュニケーションファクトリーに来る以前は力仕事ばかりで大変でしたが、現在は環境も良く働けて、とても幸せです」

これまで、まったく違う背景や課題、ニーズ、個性を持っている。その一人一人が生き生きと働ける職場を実現するためには、画一的なサービスやシステム、就労環境があれば良いわけではなく、個別に柔軟に対応できる仕組みや人材がより重要となってくる。この5年でたくさんの女性たちの思いや気持ちを受け止めてきた。さらに今後は彼女たちの声にならない思いや気づきまでも共有できるように絆を深めていきたい。

ファクトリーで働く女性、ライヒエンは私たちにこう語ってくれた。

「かものはしのおかげで仕事をすることがで

ご支援でオープンすることができた アートセンターマーケット店



2013年8月にオープンした「アートセンターマーケット店」には、ご支援をしてくださった村上裕康さま・歌子さまご夫妻の強い思いが込められています。「今回の支援は、私の叔父・叔母によるものです。叔母から、『自分の財産を元気なうちにどこかに寄付したい』という相談を受けました。叔母の志がこのような形で生かされたこと、皆さまの思いやスタッフの皆さまの努力に感謝しています。これからもさらに希望を膨らませ、前に向かって頑張ってください」と開店セレモニーに参加するためカンボジアまでお越しいただき、お言葉をくださいました。商品売ってしっかりと収益を出すこと、これがファクトリーの女性たちを継続的に支える上で最も大切です。その歩みをぐっと前に進めてくださったのが今回のご支援です。現地スタッフ一同、お二人の想いを強く受け止め、自分たちの活動の意義や役割を強く意識しながら運営に力を入れていきます。

き、今は楽しく識字教室にも通っています。コミュニケーションファクトリーに来る以前は力仕事ばかりで大変でしたが、現在は環境も良く働けて、とても幸せです」

彼女が感じた気持ち、変化、幸せを今後も1人でも多くの女性たちに抱いてもらえるように事業を前に進め続けていきたい。現地化・黒字化という大きな目標への道のりには予想もできないような数多くの困難が待ち受けているだろう。しかしそれを乗り越えていくことで、地域に根付いたコミュニケーションファクトリーが更なる大きな花を咲かせることができる。【終】

ファクトリーで働き始めてからは、 安定した給料で家族を支えられる。 これからもずっと働き続けたい。

た。ファクトリーで働き始めてからは、安定した給料で家族を支えられることがとても嬉しい。これからもずっと働き続けたいです」と力強く語った。

女性が離職の危機に直面することはいつでも起こりうる。そういう意味で、これからの気の抜けない課題となる。しかし、女性たちが働くことのメリットを十分に感じ、一人の自立した人間として歩んでいく力をつけられる職場としてこれからもあり続けたい。

5年前の1ヶ月の売上に 現在の1日の売上に

創業当初の売上は1ヶ月わずか500ドル程度だった。納期に間に合わせるだけでも大変で、スタッフが商品をお客さまや委託販売先に届けるために走り回ったこともあった。それでも女性たちの月給をまかなうためには足りなかった。そこで商品の品質向上、技能トレーニング、工程・設備の改善を重ねた。2011年には初の直営店舗をオープンし、2012・13年にも1店舗ずつ直営店舗を出店することができた。現在の1日の売上は、5年前の1ヶ月分とほぼ等しいくらいまで成長した。今後も女性

たちの生活をしっかりと支えられるよう、心を込めて手作りの商品をしつかりと製造・販売できる体制を維持していきたい。

10周年に向けて、 現地化・黒字化を実現し、 花を咲かせたい。

働く女性たちが安心して長く働ける良い職場作りのためには、このコミュニケーションファクトリーをより持続的で力強い事業へとさらに進化させていくことが必要である。具体的には、大きな目標として掲げている「現地化」と「黒字化」を実現することだ。

そのためにやるべきことはまだまだ山積みである。現地化に向けては何よりも人材育成が最も重要となる。さまざまなトレーニングや仕組みの改善についてJICAとのパートナーシップを最大限活用し、また黒字化についてはこれまで通り売上の改善を行うことに加え、原価や固定費の削減などに積極的に取り組んでいく。

そしてもう1つさらに重要なことは、働く女性一人一人に寄り添って、その声を聞くことである。これまでの離職率削減の取り組みの中でわかってきたように、女性たちはさま



【左】選別されたい草を丁寧に織っていく作業。35度を超えることも多い気温の中での作業は、水分補給や栄養バランスの良い食事を取るなどのケアやトレーニングも大切だ。【右上】働く女性の多くはこの大きなトクトックに乗って通ってくる。アクセスの悪い場所に住んでいることも仕事や教育の機会に乏しい原因の1つであるため、交通手段をサポートし、女性たちがより通いやすい環境を作っている。【右下】商品の並べ方1つで売上は変わる。日本の百貨店で勤務経験のある方から「売れる」ショップ作りのトレーニングを受ける。スタッフたちは目をキラキラさせて学び、黒字化に貢献する。

運営代表を
カンボジア人に委譲。
カンボジア人による
運営を目指します。



運営の自立

08

since 2014.1.

次世代を担う代表候補の
採用を始めました

2016年の現地化を見据え、次期代表にふさわしいスタッフ採用を開始。素質やスキル、経験はどのくらい必要なのか——。アドバイザーを交えた自立化委員会で議論を重ねました。候補者選定はこれから本格化していきます。

09

since 2013.8.

外部アドバイザーの方々と
四半期ごとに会議実施

5つ星ホテルやNGO、企業、現地化を成し遂げた経験を持つ経営者など、さまざまなバックグラウンドの方々にアドバイザーになっていただき、四半期ごとに会議を開きました。それぞれの四半期の成果や課題、次の四半期に向けた計画について、役に立つアドバイスをたくさんいただくことができました。これらのアドバイスを成果に結びつけるように努力を重ねています。



10

since 2013.9.

JICAと連携事業
現地化をぐっと押し進めます！

これまでの積み重ねのおかげで、毎日の業務は順調に回るようになっています。今後、現地化を計画通りに進めるには、しっかりした計画と資金が必要になります。2014年度からは、JICAの「草の根連携事業のスキーム」の実行が決まりました。スタッフの能力向上トレーニングを中心に、組織強化に関して支援していただく予定です。現地化を着実に押し進めます。

新たな試みで事業収入
黒字化目指す。
問題解決を持続的・
発展的に進めます。



経済的自立

05

since 2013.4.

皆さまのご支援で
売上は前年度の1.8倍！

直営店舗や委託販売、日本での販売といったさまざまなチャネルを通じて、順調に売上を伸ばすことができました。2013年度の売上は前年度の1.8倍に成長しました。ショップスタッフのトレーニングをサポートしてくださった方、プロモーションにご協力いただいた企業や個人の皆さま、そして商品をお買い上げいただいた多くの皆さまのご協力のおかげです。

06

since 2013.8.

新しいマーケットに
直営店をオープン！

新しくできたマーケットで2013年8月、直営店舗「アートセンターマーケット」をオープンしました！外国人の多い場所で売上を上げるのは新たな挑戦ですが、幅広い層のお客さまに買っただけのよう工夫を重ねています。



07

since 2014.3.

新しい、い草ブランドを
立ち上げ

カンボジアの農村女性がよく使う巻きスカートの生地とナチュラルな草を全面に押し出した新しいブランドを立ち上げました。これまでとは趣向の異なるデザインで、日本でも間もなく販売開始できるように準備しています。



困難に直面しても
乗り越えられる
生きる力を持った
女性を育てます。



女性の自立

01

since 2013.7.

給食スタート！
元気に仕事ができる

食生活が悪いと、病気になるやすく元気も出ません。そこで野菜とタンパク質をしっかりとれる給食を始めました。「夕方になっても疲れにくい！」と好評です。ファクトリーに来る楽しみが1つ増えました。



02

since 2013.8.

自己管理できる女性に。
健康診断のスタート

自らの体調管理に関心を持ってもらうために健康診断を始めました。初の体験に女性たちは少し緊張気味でしたが、診断が終わると「食生活や生活習慣にもっと気をつけたい」という前向きな声が出ていました。



03

since 2013.12.

出産後も働きたい！
託児所を作りました

農村では人生の節目が早く、ファクトリーで働きながら結婚・出産を迎える女性も少なくありません。そこで、出産後の女性のために託児所を作りました。働くお母さんの近くで、ハンモックに揺られる赤ちゃんの姿が見られます。



04

since 2013.4.

サテライトファクトリー
本格稼働

既存ファクトリーから10キロ離れたところにサテライトファクトリーが本格稼働し、17人の女性が働いています。遠く通えなかった地域に活動が広がった上、い草の織りの作業を分担することで生産性も高まりました。



Community Factory 10 TOPICS in FY2013

「働く女性たちの自立」「事業の資金面での自立」
「ファクトリー運営面の自立」
3つの自立を進めたカンボジアの
10大トピックを紹介します。

カンボジアの農村では、子どもや女性たちが、貧しさを理由に売られてしまう危険にさらされています。かものはしは2008年、安定した仕事がなく、家族が食べていけない農村に生活雑貨を作る工房、コミュニティファクトリーを現在の地域に立ち上げました。工房は、女性を雇い、自立できるよう手助けをします。これは子どもたちが売られない仕組みを作る一環です。女性たちが働くだけでなく、自身の人間的な成長を目指せる環境になっています。

事業実施期間	2008年～
実施場所	シェムリアップ州クチャ
対象	最貧困層の女性たち



ファクトリー訪問者が 1,800人を超えました！

2013年度、ご来訪者は1,839人にのぼりました！これは昨年度の約1.8倍です。訪問ツアーを企画してくださった旅行会社さま、活動を見に来てくださった支援者、商品を気に入り足を運んでくださったお客さま、勉強のために訪れてくださった学生団体やNGOの皆さま、ご来訪ありがとうございます！ファクトリーの女性たちも、日々多くの方々に関心を持って訪れてくださることを心待ちにしています。



カンボジア事業

設立5周年、成長を続けるコミュニティファクトリー、
延べ200人以上支援してきた孤児院支援、
画期的な発展を見せた警察支援。
― 着実な進捗を見せた3つの事業

**動続年数の維持、
売上1.8倍と現地化の前進、
一方黒字化にはまだ課題が残る**

安定した仕事がなく子どもが働きに行かざるをえない―そんな状況を改善するため、2008年、クチャ村に14人の女性たちとともにスタートしたコミュニティファクトリー事業。農村の女性を雇用して自立の手助けをしています。

5周年を迎えた2013年度は、120人を超える女性たちが働き、売上は前年度に比べ1.8倍に達しました。前年に引き続き大きく成長をすることができています。

コミュニティファクトリー事業の3つの大きな目標は①働く女性たちの自立や内面的成長の支援、②事業の黒字化へ向けた取り組み、③カンボジア人を中心に運営をしていく現地化です。2013年度はそ

れぞれの目標について着実な進捗があった一方で、黒字化については今後の課題が見えてきた1年でした。

①の女性の自立については、給与水準や労働環境の向上といった目に見える改善に取り組みました。また、きめ細かいカウンセリングや家庭訪問に力を入れたことで、仕事を続ける女性の割合を80%以上に保つことができました。タイへの出稼ぎが増加し、活動地域においても多くの女性たちが出稼ぎに行ってしまう中、活動への定着率を保つことは大きな成果です。

②の黒字化への取り組みについては、売上を前年度比1.8倍に伸ばし、支出もしっかりと管理したことで、予算収支をほぼ達成することができました。売上の主な増加要因はカンボジアにて、既存店舗の改善と新規店舗の開設を行ったこと、新商品の販売を開始したことです。昨



 Cambodia

年から課題の支出管理については、カンボジア人マネジャーを中心に毎月の予算・支出管理を徹底的に行なった結果、計画を超える支出抑制を達成しました。しかし、損益分岐点に到達するためにはさらなる売上の拡大と、利益率の改善・コストの見直しが必要となっており、今後の課題だと考えています。

③の現地化については、カンボジア国内にて外部の有識者を招いたアドバイスのための委員会や、自立化委員会を立ち上げたほか、新代表候補の採用活動もスタートしました。また自立化を目標としたJICAとの連携事業を開始することも決まり、今後のさらなる前進が期待できます。

5年間の総まとめに向け 確実な成果

子どもが売られないためには、人身取引の被害にあうリスクの高い子どもを水際で守ることが必要です。そのためタイとカンボジアの国境に位置するドムノータック孤児院を支援してきました。特に、人身売買の被害にあった子や被害にあうリスクの高い子どもたち49人を支援しています。子どもたちが安全な場所で生活を送りながら勉強できる環境をサポートすることで、被害を水際で防ぐことができるのです。困難な状況から保護された子どもたちは、2013年度はレジデンシャルセンターの16人の子どもたちが、再び学校に戻ることでできました。また、2009年からの4

年間では延べ2000人の子どもたちを保護・支援することができました。2014年度は支援の最終年度となりますが、これまでの成果を総括し今後の活動に活かせるように力を尽くしたいと思います。

モニタリング評価事業の拡大、 日本警察の招聘会合の開催

子どもを扱う人がいなくなれば、売られる子どもを守ることができます。子どもをかわせないために、子どもを扱う人や売る場所を確実に摘発できるよう、警察の能力を伸ばすことが重要です。これに注力するのが警察支援事業です。2013年度は人身取引特別警察を対象とするモニタリング評価事業を、4地域に拡大し実施しました。その成果は国家警察関係者からも高い評価を得ることができています。そういった地道な活動に加え、2013年11月には、日本の警察専門家カンボジアに招き、内務省や国家・州警察関係者、援助関係者と会合する機会を主催しました。その際には捜査研修も実施し、画期的な取り組みを行うことができました。

また、年間を通じて他機関と密接な連携にも積極的に取り組んだ結果、政策レベルの意思決定プロセスにも参加することができました。これらの活動を通じ、今後の警察支援の中長期的な展望を描くことができたことは大きな成果です。



販売・マーケティング部門

みんなで作った製品を販売します。売上を着実に上げるために地道な作業を頑張っています。



生産部門

お客さまに選んでもらえる製品を作るため、少しでも良い品質を目指すところです。



人事部門

女性たちのケアやスタッフのトレーニングを通じて、人間的な成長をサポートし、強くなやかな組織を目指します。



カンボジア事務局

会計や財務管理に加えて、内部規則や会計システムなどの強化も行い、円滑な事業運営を可能にしています。

コミュニティファクトリーで

働くひとたち

コミュニティファクトリーでは5部門、34人のカンボジア人スタッフが女性たちを支えています。



商品開発部門

新商品の開発や既存商品の改善など、売れ筋を把握しながら商品展開の戦略を練っています。

警察支援

評価事業を4地域に拡大
日本の警察関係者からアドバイス
司法関係者を結びつける役割も

子どもを買い手がなくなれば、売られる子どもはいなくなりますが、かものはしは、買う人や売る場所を摘発する警察を支援しています。



内務省、LEAP関係者、日本の警察専門家が集まり開催した意見交換会の様子。日本の警察専門家の方から、各州の人身取引警察官に対してさまざまなアドバイスをしていただいた。

4地域の状況を モニタリング評価

かものはしは、カンボジア各地の警察の能力や犯罪状況を調べる「モニタリング評価事業」を支援しています。2013年度は、プノンペン特別市のほか、シエムリアップ、バンテイメンチェイ、シハヌークビル州の4地域で評価事業を実施。その成果はLEAP(正式名称:子どもの性的人身売買・性的搾取防止のための警察支援プロジェクト)の代表を務めるブルム・ソカー内務省長官や警察関係者らから高く評価されています。

評価事業後にも、内務省・国家警察関係者による自発的なフォローアップや、捜査研修の内容の各地域の実情や警察の能力に合わせた見直し、一線の警察官が苦手とする法律解釈などを補う教材作成などが行われています。評価事業を手がかりにした警察の力を伸ばす取り組みは広がっています。これらの取り組みを通して、人身取引特別警察のホットライン電話への問い合わせが、迅速な捜査につながる事がわかりました。一方、ホットラインの運用やデータ管理等に関しては各州共通の課題があることもわかってきました。より効果的な活用を目指して、2014年度は現在のホットラインの見直しを重点的に支援します。

また、他の国際機関との連携も大切です。2013年度は、政策レベルの意思決定プロセスに積極的に関わりました。6月にシエムリアップ州で開かれた「カンボジア・タイ政府間の人身取引等に関する覚書

(MOU)改正交渉会議」には、カンボジア側出席者として改正交渉に貢献しました。

日本の警察専門家が カンボジア訪問

LEAPは2015年末を一つの区切りとして終了します。最終フェーズを見据えて中長期的な警察支援計画が必要です。その手がかりを得るため、日工組社会安全財団の助成を受け、11月に海外の警察支援の実績を持つ日本の警察専門家をカンボジアにお招きしました。捜査研修視察のほか、内務省、LEAP関係者、警察関係者との意見交換をしていただき、今後の支援に関するアドバイスをいただきました。そのアドバイスと、その後の関係機関へのヒアリングの結果を踏まえ、LEAP関係者とともに2014・15年度の支援計画を策定しました。

子どもの人身取引の現状と 事業を通して見えた課題

警察支援を通して浮かび上がった課題は、各コミュニティに根ざした活動の必要性です。州警察の下には市・郡、さらにその下の村の集合体であるコミュニティの警察官がいます。これまでは主に州の人身取引特別警察の能力向上を支援しました。ただ州警察の人員は十数名程度と限られているので、2014年度はコミュニティを対象とする警察支援を行います。

警察のほかに検察や裁判所が抱える課題

もありません。警察と司法関係者の連携が不十分な上、容疑者を逮捕・起訴した後の刑事裁判手続も改善の余地があります。カンボジアは長きにわたる内戦の影響で裁判官や検察官が足りず、教育・研修制度もまだまだです。2014年3月にはプノンペンで、かものはしや国連薬物犯罪事務所などの支援で、カンボジア全州の人身取引特別警察や裁判官・検察官らが話し合う会合を開きました。これらの人たちが一同に会するのは初めてのことで、各省庁長官らに現場の窮状を訴えて改善を強く求める警察官もあり、有意義な会合となりました。

また、米政府が毎年発表している人身取引報告書において、カンボジアの人身取引対策の状況が、2009年以降4年ぶりに一段階悪化したとの評価をされました。その理由として、強制労働目的の人身取引の悪化に加え、秘密裏に行われる性的人身取引の問題や子どもの被害者数の増加を指摘されています。かものはしでは引き続き注意深く状況を見ながら必要な活動を行っていきます。

2014年度支援の内容

2014・15年度は、7州すべてで実施する事業として、「人身取引特別警察に対する捜査研修(年1回)」と「人身取引特別警察ホットラインの見直しと強化」を行います。シエムリアップ州は対象の地区で、犯罪予防事業およびボリス・ポストの警察官を対象とした捜査研修を年2回実施します。

孤児院支援

困難を抱えた孤児院の子どもが
明るく未来を描けるよう
安心して暮らし学べる環境を支援

16人が学校へ 14人は職業訓練

かものはしは、タイとの国境に近い街ポイペトにあるドムノータック孤児院に保護された子どもたちが生活する、レジデンシャルセンター(住居施設)を支援しています。労働力目的の人身売買やドメスティックバイオレンスの被害者、路上生活をする子どもなど、さまざまな背景を抱えた49人の子どもたち(2014年3月時点)が暮らしています。栄養ある食事提供や医師による健康状態のチェックなど、子どもたちが安心して暮らせる環境が整っています。

センターでは、子どもたちが身体的・精神的に回復し、社会の中で生きるために必要な力(ライフスキル)を身につけられるよう、一人一人の状況や希望に合わせたプログラムがあります。貧困ゆえに学校に通えない子どもたちに勉強できる環境とライフスキルを学ぶ機会を提供する教育プログラム、孤児院卒業後に自立した生活を築けるように裁縫や設備技師の技術を学ぶ職業訓練などがあります。2013年度は、教育プログラムで一生涯勉強した16人が学校に戻り、14人が



孤児院で生活する子どもたちがお絵かきをして遊んでいる様子。他にもスポーツ、家庭菜園、料理・掃除など、子どもたちが豊かに成長できるようさまざまな取り組みが実施されている。

職業訓練を受けました。夢を持って自分の将来に向かって進む子どもたちのためにかものはしは力を尽くしています。

2014年度は支援の 総仕上げ

2009年の支援開始から4年が経過しました。この間、延べ2000人の子どもたちに安心して暮らせる環境や将来のための学びの機会を提供してきました。支援者の皆さまに感謝申し上げます。2014年度は支援計画の最終年度にあたります。これまでの支援で一定の成果が得られたことなどを考えた結果、今後は、売られてしまう危険のある子どもや女性たちが多いインドに支援の力を向けることにしました。2014年度はこれまでの成果を総括し、今後の活動に活かしたいと考えています。

事業実施期間 2009年～

支援地域 バンテイメンチェイ州ポイペト

対象 孤児院の子どもたち

インドレポート

文：インド事業担当／清水友美 編集：永井順子
写真：Siddhartha Hajra

私は従姉に売られた

恐怖と絶望の連続

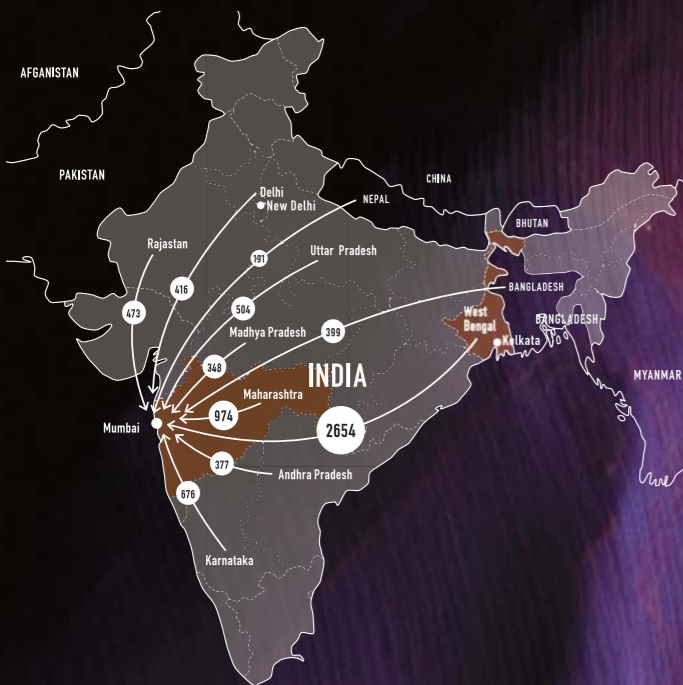
2013年3月、私はサリナに会うために、コルカタから3時間、ガタガタの道を車に揺られていた。サリナの住む西ベンガル州南24区はバングラデシュとの国境にあり、世界遺産でもあるスタンダルバンス国立公園があるデルタ地域だ。洪水やハリケーンが来ると農作物はすぐ塩害にやられてしまつて、家族の誰かが出稼ぎに行かなければ食べていられない。6年前、サリナも同じように村を出て働こうと決めた。17歳だった。

「父も母も働き通して、それでも家族全員が3食食べることはできなかった。だから私が働こうと思いました。父と母に相談したら止められたんだけど、私、お腹をすかせ、学校にも行けない弟や妹のために働きたかった。そんな時、同じ村に住む従姉がとても良い働き口を紹介してやるって言うので会いに行きました。そこで勧められた冷たい飲み物を飲んだら気を失い、気づいたら電車に乗っていて知らない男が隣にいました。私は訳がわからず、家に帰してほしいと泣き叫びました。そしたら暴力をふるわれ、静かにしないと殺すぞと脅されました。『お前をあの女から買った。お前は借金を返すまで今から行くところから出ることはできない』と言われ、売春宿に連れて行かれました。私は従姉に売られたのです」

サリナは「はにかむ」という表現がぴつたり、小柄で静かな「女の子」だった。底のない漆黒の瞳に吸い込まれる。深い悲しみを映し出しているとも、凛とした決意を映し出しているともとれる瞳だった。盛土をした床に竹でできた壁。トタン屋根をヤシの葉が覆い、日除けになっている。豊かではないが、簡素できれいに手入れされた家だ。そこにサリナは両親と兄、4人の弟、3人の妹と暮らしている。売春宿からレスキューされ、家に帰ることができたサリナは勇気を振り絞って、従姉に対する訴訟を起こした。でも村の中でサリナの味方になってくれる人はおらず、従姉の嫌がらせは続き、飼っていたニワトリを殺されたり、父親が怪我を負って入院したこともあった。やがて恐怖で家から出られなくなった……そんな風に自分の過去を話してくれた彼女の声は消え入りそうで、視線は定まらず、私は心が苦しくなった。

「次の被害者を出さないために。」

Search for Justice



インド人身売買被害者の流れ

インドには、100～300万人の女性と子どもたちが人身売買の被害にあっていると考えられています。マハラシュトラ州政府のデータによりますと、2006年から2013年の7年間に同州で救出された女性、子どもの出身地トップ10は、47%以上が西ベンガル州出身者で、突出していました。続いて、マハラシュトラ州出身者、次に隣の州のカルナタカ州出身者が多いことがわかっています。西ベンガル州出身者が多い理由は、西ベンガル州が災害の影響を非常に受けやすく、ネパール及びバングラデシュと国境を接していること、女性の移動性が高いことが搾取の対象になりやすいと考えられています。一方、そんな女性、子どもを農村から連れ出す「トラフィッカー」は、家族や親戚が30%、近隣住民が40%と、被害者の知り合いが実に70%を占めています。これまでのかものはしの調査で、実の父母や兄弟がトラフィッカーであることは決して多くないことがわかっていますが、人身売買の実態は、被害者の非常に身近なところで発生しています。
出典：State and country wise number of victims admitted in shelter homes of Maharashtra in the year 2006-2007 to 2011-2012(マハラシュトラ州女性子供開発局)

あなたが助け出してくれたから、 今の私がある

支配される側から 自分で決める側に

身も心も閉じこもってしまったサリナを心配し、お母さんが地元のNGOに相談に行った。そうして彼女はかものはしが支援するカーリヤプロジェクトに参加することになった。

このプロジェクトでは人身売買の被害にあった女の子10人が協働して自分の中に蓄積した「罪」の意識を取り除き、レジリエンス(生きる力)を回復させる。定期的に集まって心理回復のプログラムに取り組みるとともに、一人一人がマイクロビジネスを始めるのが特徴だ。地元のNGOと一緒に市場調査をして、始めるビジネスを自分で決め、かものはしから1万5千ルピー(約3万円)の立ち上げ資金を受け取る。地元NGOは事業改善のアドバイスはするものの、彼女たちの意思を尊重し、自分で決めたことを遂行できるようにそっと寄り添って支えるのが基本スタンスだ。

サリナは村はずれに小さなお店を建てた。小分けになったシャンプー、歯磨き粉、水がめ、鉛筆、ノートなど日用品、シャボン玉などの玩具、髪飾りやピンディなどおしゃれグッズも売っている。たくさん商



生計を改善するために始めたマイクロビジネスは、彼女たちの立ち位置を変え、心の回復も助ける。

品が並び、店の前には女の子たちが楽しそうにたむろっていたが、儲かっているようには見えなかった。ビジネスの初歩をわかっていない彼女たちが貧困を抜け出すには、寄り添うことより強力な介入が必要なんじゃないか、と思いサリナに聞いた。「1日いくらか稼ごうと必要ありませんか。3年後にはどれくらいビジネスにしたいですか。実現のためにしなければならぬことは何だと思えますか」。するとサリナは困惑しながらも、はっきりと私の目を見て言った。

「私の店は、まだ儲かっていません。でも、私にとってこの店はそれ以上の意味を持っています。私はこれまでずっとコントロール『される』側の人間でした。誰かに命令され、従うしか術がなかった。そんな私が『今日の仕入れは何にしよう、儲かったお金で何をしよう』と考えて行動を起こせるようになった。『人身売買の被害者』から『ビジネスウーマン』になったんです。支配される側から、自分で何かを決める側になったことは、私にとって奇跡でした」。頭をがんと打たれた思いがした。



被害者がかものはしの支援で運営している雑貨屋⑥西ベンガル州南24区。日用品の他、プレスレットや髪留めなど、女性をターゲットとした雑貨も販売。お客さまである女の子たちが抱える問題の相談役にもなっている。

人生すべてをかけて、 正義を求める

サリナとは、それから何度か会っている。2014年1月に行った調査ヒアリングにも参加してくれた。この調査は、11人の人身売買案件を追跡し、サバイバー(人身売買被害者)の正義を裁判で実現するために何が障害となっているのか、サバイバーが出身地から目的地まで売られていく「人身売買」を実証し、加害者を取り締まるためにはどうしたらいいのかを分析するものだ。

浮かび上がった現状は、裁判を起こしたサバイバーたちにとってあまり芳しい結果でなくて、私は心が重かった。

ある女の子のお母さんが言った。「私の娘は何も悪くない。でも村の人たちや親戚は、あの娘が男をそのかしたんだ、けがれる、と私たち家族を追い込む。彼らに正義を理解してもらうために裁判をするのです」。

ある女の子は言った。「裁判に勝ったところで私に直接の利益があるわけではないけれど、コミュニティの人たちに『犯罪を犯したものは罰せられる』と理解してもらうことは大事だから闘うの」。

それに感化されたように、サリナも立ち上がった。村に帰ってきた時、私はずっと泣いていた。未来はもうないと信じてた。怒りが自分を壊してしまえばいい、怖かった。でもカーリヤプロジェクトに参加して、自分と同じように苦しんでいる女の子たちがいることを知った。最初は自分の気持ちと向き合うのが苦痛だったけど、絵や詩を使って自分の気持ちを表現できるようになる

動の再会だ。

「シャイニーさん。6年前、あの売春宿で、恐怖で泣きじゃくることしかできなかった私がここまで回復し、成長しました。あなたが救い出してくれていなければ、今の私はなかった。あなたに恩返ししたくて、今日まで歯を食いしばって頑張ってきました。あなたには、目の前の私が、6年前のあの私だと信じられますか?」サリナがそう聞くと、シャイニーは泣き出した。

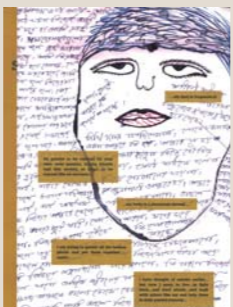
「私がレスキューに入った時、あなたはとても小さくて真っ暗な、人がいるとは到底思えないスペースに押し込められていた。必死で引きずり出したあなたはただただ小さかった。震える体を抱きしめながら、どうかこの子に素晴らしい人生が待っているようにと、それだけを願って保護し、村へ送り返しました。私たちの仕事が報われるのは、救い出した女の子がその後の人生を一生懸命に生きている姿を見ることができるときです。生きていてくれてありがとう」。

強面の男性NGO職員も私も、部屋にいた16人全員が、あふれる涙をこらえられなかった。私たちの追い続ける希望は実現するのだと、誰もが身をもって感じるようになってきた瞬間だったのだと思う。

レスキューファンデーションが救出する女の子の数は年間約300人。性産業に従事する人身売買の被害者はインド全体で100〜300万人と言われている。サリナは、そのうちの1人にしかすぎない。私は正義を求めるサバイバーの女の子たちを全力で支え、「次の被害者を出さない」ために、一緒に闘い続ける。【終】



長く暗い道のりの末、生きる力を取り戻した彼女たちは、シンプルな言葉でもとても鋭い、本質的な意見を述べる。彼女たちがとても強いのは、二度と自分のような女の子を出したくない、と心から思っているから。5月の会議で私たちは、置かれている立場を乗り越え、一緒に正義を求めて闘っていくことを確認し、ともに長い道のりに乗り出しました。その道のりはとても長いので、多くの皆さまの勇気と知恵と力が必要です。引き続き力を貸してください。(サバイバーと現地パートナー団体「サンジョグ」のウマと清水(真ん中))



村に戻った被害者が描いた自分の顔。村に戻った後、孤独感から自殺を試みる被害者が多いが、この絵には生きる希望を取り戻したプロセスが描かれている。

生きていてくれて、 ありがとう

2014年5月、さまざまな立場の関係者16人が専門性を持ち寄り、被害者の正義を実現する最強の長期計画を立てるためにコルカタに集まった。救出を担うレスキューファンデーション、サバイバーの生活を支えるコルカタと農村部のNGO、かものはしから本木と私。このワークショップにもサリナの姿があった。サリナの「同志」、カーリヤプロジェクトの女の子2人も参加してくれた。こうした場にサバイバーが参加し、発言するのは初めてではないだろうか。そしてなんと、サリナの救出に携わったレスキューファンデーションの弁護士、シャイニーもまたま参加していた。感

かものはしは、

サリナのような子ども・女性たちを一人でも多く
人身売買の被害から救い出し、人生を再び歩んでいくことができるように、
パートナーとともに現地で力強く活動を続けます。

インドには人身売買を撲滅するために力強く活動を続けてきた数多くのNGOが存在します。しかし人身売買に関わる人々はあまりにも多く、本来それを防ぐ役割を担うシステムには多くのほころびが存在します。それらを修復して、被害者が再び人生を歩んでいけるようになるために、かものはしはそれぞれのノウハウや強みを持つNGOをつなぎ、戦略を作り出す役割を担っています。

インドでの活動におけるキーワード 「ヴァルネラビリティ」とは？

ヴァルネラビリティとは、内面的に「傷つきやすいこと、脆弱性」であると同時に、危険や災害のように外的環境によって体や心を攻撃されたり傷つけられたりする可能性にさらされていることを示す。ヴァルネラビリティはインドの人身売買被害者を取り巻く「外的環境」として確かに存在し、その存在がさらに彼女たちの「内面的ヴァルネラビリティ」を高めていき、気がつくとも人身売買の犯罪に巻き込まれている。そのヴァルネラビリティの代表的なものが、家庭問題であり、貧困である。トラフィッカー（少女を騙し売春宿に売り飛ばす者）は、彼女たちの家を出たいという思いや、嫁がなければならぬという思いを逆手にとって、彼女たちを売り飛ばすのだ。

救 出した被害者を保護し、 回復をサポート。

救出された被害者は、政府やNGOが運営するシェルター（保護施設）に收容され、家族の元へ帰る準備が整うまでの数ヶ月間、医療サービスやカウンセリングを受けながら、売春宿で受けた心と身体の傷を癒していく。また人身売買の被害にあいやすくなる要素を取り除き、再度被害にあうことがないように少女たちを強くしていく。

Partner in INDIA Save the Children India Jyoti Nale

セーブザチルドレンインド
人身売買プログラム統括
ジョティ・ナレ氏

ソーシャルワークの修士号を修め、STCIの人身売買プログラムを10年以上引っ張ってきた。STCIは政府シェルターから、未成年の被害者を受け入れ、カウンセリング、基礎教育、職業訓練を提供する。2013年度からコルカタシャンブドと共同でクリエイティブな心と身体のリハビリプロジェクトを実施。

Partner in INDIA Dhriti Foundation Radhika Rajagopalan

ドリティファンデーション 代表
ラディカ・ラジャゴパラン氏

MBAを修めた後、マイクロファイナンス企業で働く傍ら、2012年ドリティファンデーションを立ち上げる。マイクロファイナンス企業がリーチできない社会最弱者層に提供できるサービスと商品の開発に力を注ぐ。



被 害者を救い出し、 加害者を捕まえる。

子どもが小さければ小さいほど、色白できれいであればあるほど、「鳥かご」の中に閉じ込められている。未成年者の多くは誰にも見つからないよう、売春宿の中でも想像を絶する「場所」に隠されている。そこから被害者たちを救い出すのがレスキューを実施するNGOだ。

Partner in INDIA Rescue Foundation Triveni Acharya

レスキューファンデーション 代表
トリベニ・アチャルヤ氏

元ジャーナリスト。夫が2000年に立ち上げたレスキューファンデーションを、2005年から取り仕切る。年間300人の子ども・女性たちを売春宿から救出、保護、リハビリしている。3ヶ所のシェルターで保護している一人一人の名前と被害経緯を覚えており、子ども・女性たちの保護に人生のすべてを注ぐ。



被 害者の正義を 実現する。

被害者が農村から連れ出され都市部の売春宿へ売られる過程において、調達役から売春宿の客に至るまで多くの加害者が加担している。中でも売春宿の経営者や客引きは取り締まられるようになってきたが、農村で子ども・女性を調達する「トラフィッカー」たちは野放しだ。すべての加害者が適切に処罰され、被害者が正義を獲得できるよう支援する。

Partner in INDIA Kolkata Sanjog Initiative Uma Chatterjee

サンジョグ 代表
ウマ・チャッタージー氏

心理カウンセラー。最前線で人身売買問題と闘う人たちのサービスクオリティ向上と、人身売買被害者の心と権利回復に力を注ぐNGO。問題の本質を明らかにし、それを改善するモデルの開発に長けている。インド人身売買問題の全容を理解し、戦略を立てることのできる唯一無二のパートナー。



Partner in INDIA GGBK Nihar Raptan

GGBK 代表
ニハール・ラプタン氏

人権活動家。多くの被害者の出身地である西ベンガル州南24区で30年活動を続けている。行方不明になった女性・子どもの情報を各地のNGOに渡し検索するとともに、売春宿から救出された村に戻ってきた際にもさまざまな支援を行う。加害者から恒常的な脅迫を受けながらも、最前線でこの問題と闘い続ける。



安 心して暮らせる 世界へ。

さまざまなリハビリサービスを受けて心身ともに回復したサバイバーが、各地で、女性と子どもが安心して暮らせる地域を作るために活動したいと声を上げ始めている。彼女たちの心の回復と同様に平たんな道りではないはずだが、当事者としてこの問題の解決に乗り出そうとしている彼女たちをかものはしは全力で応援する。



現地パートナー団体と、サバイバーとかものはし本木・清水

「次の被害者を出さないために。」

Search for Justice

インド事業



 **India**

村の女性から話を聞く村田。コルカタから車で3時間の村にて。
Photo by Siddhartha Hajra

インドでの活動2年目。
187人の被害者を支援し、
100人の政府・NGO関係者と議論・調査。
問題解決への戦略が描けつつある。

より効果的な 支援モデルの確立に向け 調査と試行、検証をすすめる

2013年度は187人の被害者を支援しました。それぞれの分野で専門性を持つ現地NGOと連携して、救出後の精神的な傷の回復サポート、経済的自立に向けた職を持つことの支援(P14〜17のインドレポートに記載の「キャリアプロジェクト」のこと)、人身売買に対しての知識が豊富な弁護士と連携した裁判の支援などを行いました。単に既存のプロジェクトに対し

て支援をするだけでなく、「より効果的な被害者支援モデルを確立する」ということを目的として、3つの支援モデル開発を実施しています。支援モデルの開発は2014年度も継続して行い、効果の検証も続けていきます。優れた支援モデルが確立できれば、そのモデルの展開地域を拡大することで、より多くの被害者により質の高い支援を届けることが可能です。

一方で、インドにおいて「子どもが売られない社会」を実現するための問題分析と現状調査も行いました。現地NGOと協働で、30人以上の被害者、100人以上のNGO関係者、子ども福祉委員会、警察、検察、裁判所、国際NGO、財団などの関係者と面会し、詳しい話を聞くとともに、何が解決の鍵となるのかを検討しました。これらの調査結果を踏まえ、2014年度はより具体的な事業戦略を立案し、実行する予定です。

並行して、インド事業の実施体制を整えることを継続していきます。日本人スタッフは本木・清水の2人体制となり、現地NGOとのパートナーシップの強化も進行中です。またインドでの活動拠点を形成するために、引き続き努力します。

現地NGOによる既存の活動を支援することが主だった2012年度に比べ、2013年度は新しい取り組みを数多く行いました。失敗から学ぶことも多く、濃度の高い1年でした。「子どもが売られる問題」をなくすためには、資金、人的資源、パートナーとの関係性など、あらゆる面でさらなる強化が必要だと実感しています。

2013年度の振り返り

- 2014年度まではインドに活動基盤を築く段階と捉え、将来の成長や発展を実現するために、インドの「子どもが売られる問題」についての多くの「学び」を増やし、「失敗」を臆することなく活動を前進させることを重視しました。実際に挑戦した結果、小さな失敗を多くできたことで、そこから学びも多い1年となりました。
- 計画通り、インド最大の子どもが売られるルートであるマハラシュトラ州(州都ムンバイ)〜西ベンガル州(州都コルカタ)に重点をおいて活動を進めました。
- 日本人2人体制となり、活動を押し進めました。また、現地パートナー団体との関係は強化されましたが、インドの活動拠点の形成は遅れています。

2014年度以降の展望

- マハラシュトラ州〜西ベンガル州間のルートを重点に、2018年度までに問題の減少を目指します。
- 優れた「被害者支援モデル」を確立します。また、特に犯罪が野放しになっている農村部での被害を防ぐため、問題解決のための「生態系」づくりに着手します。
- 事業を拡大するべく、資金と人的基盤、パートナーNGOとの関係性を強化します。

問題解決のための「生態系」 を分析し、変革するための アプローチを考える

調査と今後のインド戦略

「子どもが売られる問題」全体の分析に取り組んでいます。現状はどうなっているか、その原因は何か。政府やNGOはどのように対処しているのか。問題を防ぐ理想の社会システム(＝問題が解決された状態の「生態系」とはどのようなものか。理想と現状のギャップはどこにあり、どのギャップから埋めていくことが問題解決の早道か。その具体的な方法論は……)と、常に総合的な視点で捉え、考えています。

10億人以上の人口を抱える数百の言語を持つインドにおいて、貧困や差別、慣習、経済発展、教育など多種多様な要因が絡み合っており、「子どもが売られる問題」を解決するためには、NGO、政府、財団などさまざまな関係者が有機的に力を合わせ対処する「生態系」を構築させていく必要性がわかりました。

「生態系」の分析で、特に重要な課題が見えてきました。それは、当事者である被害者の「声」が、まったく関係者に届いていないということです。売春宿から救出された少女たちは単純に「無力でかわいそうな被害者」として扱われているのが現状です。しかし精神的・経済的な自立を支えるための十分な支援を受け回復した経験や、「自分のような被害者を出したくない」という元被害者の強い思いが「生態系」に良い影

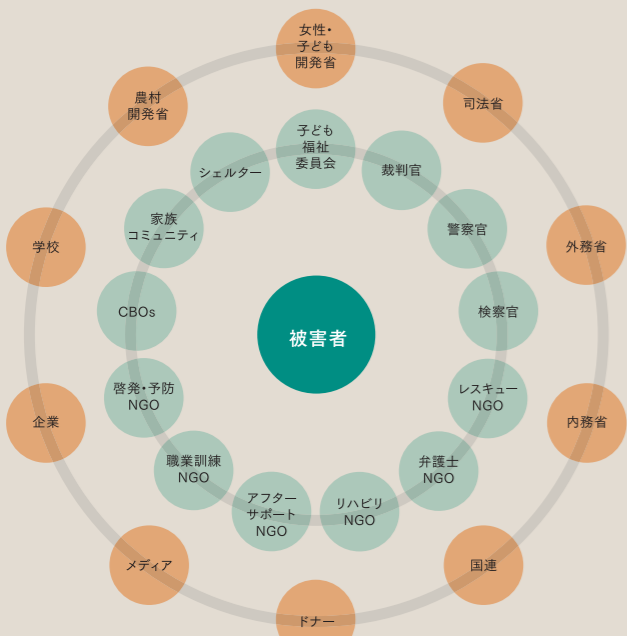
響を及ぼし、その結果問題解決を加速することができると考えています。

また、売春宿がある都市部においては問題が見えやすいため支援が集まりますが、被害者が連れ出され、また救出された後に戻ってくる農村部においては、十分な支援が集まりません。広大な農村から他州の都市へ出稼ぎに行く人が大量にいるため、予算の乏しい行政やNGOが単独で「子どもが売られる問題」に対応するのは現実的ではありません。州をまたいだ犯罪なので各州の連携も必要ですが、容易ではなく、結果として被害者を農村部で誘拐する「トラフィック」などは捜査・裁判を適切に行われずに犯罪が野放しになってしまっています。こうした現状を踏まえた上で農村部での支援が必要です。



2013年度に実施した調査結果を、警察や裁判官、弁護士や政府・NGO関係者と共有し、生態系の各プレイヤーが適切に機能する必要性を確認した。

被害者を取り巻く 関係機関・人の生態系



人身売買の問題に関与している関係者は非常に広範で多岐に渡る。被害者が直接サービスを受けるNGOやシェルター、警察や検察がいる一方、生活基盤である家族や村コミュニティが存在し、その外側に政府、ドナーや国際機関などが何らかの機能を果たしている。この多岐にわたる関係者が、有機的に連携していくことが大事である。

プロジェクトリスト一覧

プロジェクト名/団体名/地域	期間/状態	内容/成果/課題	年度予算(万円)			
			2012	2013	2014	合計
被害者の心理回復モデルの開発 【コルカタシャンプド/STCI】 @マハラシュトラ州/西ベンガル州	2012年10月~ 2015年5月	(前ページにて詳しく紹介)2012年度は関係者及び被害者への調査を実施し、2013年度は7人の被害者に開発したプログラムを提供した。その結果、効果があることが確認されたものの、プログラム改善の余地はあり、また効果の客観的な証明にも課題は残っている。2014年度は再度少数の被害者にプログラムを提供しながら、このプログラムを横展開して、多くの被害者に届ける準備を行う。	63	201	185	449
農村部でのリハビリテーション及び 経済的自立支援モデルの開発 【サンジョグ/GGBK】 @マハラシュトラ州/西ベンガル州	2013年7月~ 2015年4月	村に戻った後も、被害者には多くの困難が待ち構えている。継続的なカウンセリングと経済的自立の支援が必要だが、これに成功したモデルはほぼないため、開発に着手した。マイクロビジネス支援と心の回復の活動を組み合わせることで、6人の被害者の心理回復と、家族・コミュニティ内の立場の復元にポジティブな影響が見られた。2014年度も継続して開発を行い、持続性を検証するとともに、モデルを広げるための準備を行う。		139	161	330
被害者の都市部での経済的自立 支援モデルの調査・開発 【ドリティアンデーション】 @マハラシュトラ州	2013年10月~ 2014年3月 終了	被害者が保護施設に滞在期間する数ヶ月の間に現金収入を得、施設を出た後の経済的自立の助けとするモデルの開発を行った。具体的にはアクセサリ製作の仕事を被害者に提供するのだが、実施団体のドリティアンデーションはビジネスセクター出身の起業家が立ち上げた団体で、一般のNGOにない工夫が多く盛り込まれた。「被害者」としてではなく「大切な従業員」として接することで、彼女たちの労働意欲に顕著な違いが見られたこと等である。なお、このプロジェクトは公益財団法人公益推進協会 夢屋基金による助成事業です。		93		93
レスキュー後の法務活動の支援 【レスキューファンデーション】 @マハラシュトラ州	2013年6月~ 2014年5月 終了	レスキューを行い、また保護施設で被害者を受け入れるNGO、レスキューファンデーションの法務活動を支援した。レスキューへの同行、被害者の送還手続き、裁判での被害者及び検察官へのサポートなどが弁護士らによって実施された。約100人の被害者にサポートを提供することができた。その結果が、下記の調査にも活かされている。		205		205
人身売買の現状及び 解決策に関する調査 【STCI/サンジョグ】 @マハラシュトラ州/西ベンガル州	2013年7月~ 2014年3月 終了	25件の具体的な人身売買の事例について、被害状況及び捜査や裁判の進捗とその背景にある要因について詳細な調査を行った。各種資料や被害者、家族、NGO、警察、検察などへの聞き取りに基づいた。その結果として、人身売買を防止するための構造的な課題が具体的に見えてきた。この調査を受けて、解決へのプログラム開発及びその実験的展開を2014年度以降に行っていく。			198	198
県レベルでの政府諸機関・NGOの 連携促進モデルの開発 【STCI】 @マハラシュトラ州	2014年6月~ 2015年5月	上記調査の結果をうけて、州の下の行政単位である「県/地区(district)」において、政府の各機関及びNGO等の連携を促進するモデルの開発を行う。初年度は、地域の選定、過去事例の分析とパイロットテストを行う。			200 (調整中)	200 (調整中)
マハラシュトラ州・西ベンガル州の 政府諸機関・NGOの連携促進・ 能力強化 【レスキューファンデーション/ サンジョグ/GGBK】 @マハラシュトラ州/西ベンガル州	2014年6月~ 2015年5月	特に西ベンガル州の農村地域にのさばる「トラフィッカー(少女を騙し売春宿に売り飛ばす者)」を適切に逮捕・起訴・有罪にすることで、「トラフィッカー」グループの活動を抑止し、犯罪を防止することを目指す。具体的には、政府への提言活動、マハラシュトラ州と西ベンガル州の州間の連携促進、政府機関やNGOの能力増強や、実際の事件の裁判支援を長期的に行う。2014年度は長期的な活動計画の立案及び活動のスタートとなる。レスキューファンデーション、GGBK、サンジョグ及び被害者グループとともに活動を実施するが、他の政府諸機関・NGOとの連携も重要である。			400 (調整中)	400 (調整中)
有望なNGOの発掘及び 資金調達活動支援 【ダストラ】 @マハラシュトラ州	2012年12月~ 2014年3月 終了	マハラシュトラ州と西ベンガル州の人身売買の状況と80以上の団体を調査し、中でも問題解決にインパクトを出しうる13団体を特定、調査資料として公開した。またインド国内外の企業や富裕層から約5000万円の資金調達を行い、最もインパクトを出しうる1団体アングラトラスに支援を行った。優れた団体の発掘とその団体への資金調達という当初の狙いは果たしたが、支援に関する考え方の違いが大きいため契約は更新しないことと判断した。	282			
成長性が極めて高い サンジョグに対する組織支援 【サンジョグ】 @西ベンガル州	2013年7月~ 2015年5月	サンジョグは2012年に発足した新しいNGOである。メンバーは人身売買の取り組みに10年以上の経験を持つ。戦略的な発想としっかりとしたモニタリング・評価を強みとしており、問題解決に深く貢献できる成長性があると判断して、その組織の成長を支援する。2012年度に比べスタッフ数が2倍以上に増え確実に成長しているものの、依然としてトップに依存する組織体制であるため、今後も継続的な支援が必要である。		162	181	343

かものはしと現地パートナーの 共同プロジェクトリストとこれまでの成果

被害者の心理回復モデルの開発

Kolkata Sanved / STCI
パートナー団体: コルカタシャンプド / STCI

被害者が心と身体の尊厳を取り戻す リハビリテーションのモデル開発

救出されて安全な環境で保護されても、心の回復はとても難しい。こみ上げる怒りを抑えきれず、本当は仲良くしたいのに周囲の人に当たり散らしたり、自分も人も信じられないと打ち明ける少女も多い。コルカタシャンプドは、そんな少女たちの心の傷を癒し、人生を歩んでいくためのプログラムを提供するスペシャリスト団体だ。その手法はダンスを通じて自分の身体が自分のものだという認識を取り戻す、仮面をつけることで心の奥に押し込めた恐怖を口に出せるようにするなど、とてもユニークだがどれも効果を上げている。



風船を通じて自分と他人との関係性を体感するセッション。1人で風船を扱うのは簡単だが、2人で挟んだ場合は相手の意思との調整が必要となる。そういったことを言葉ではなく身体で理解するセッションである。

問題解決に重要なのは被害者の「声」

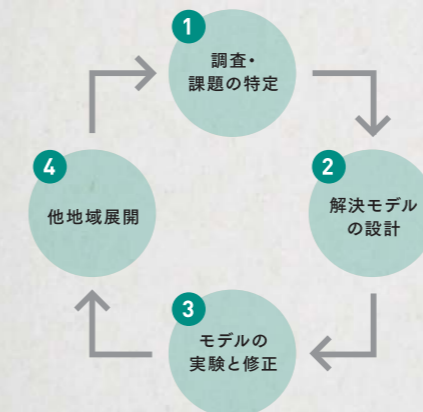
だが、心の傷が癒えなければ事実と向き合うことは難しい

被害者はレスキュー後、被害についてNGO、警察、裁判所、家族、村などで何度も説明を求められる。被害経験を話すことは多大な心痛と困難をもたらすが、「被害者の声」は問題を解決していく上で非常に重要だ。警察捜査の重要な情報となり、裁判で有罪をもたらず証言となり、家族や社会はその声を傾聴して、被害者への接し方を改める。だからこそ被害者がトラウマから解放され、強さを取り戻す支援が重要だと考えている。

被害者の心理回復モデルの開発は、コルカタシャンプドが行っている。メンバーの半数は、人身売買の被害者や元ストリートチルドレンなどで構成されているユニークな組織だ。2013年度はSTCIが支援している被害者7人にこのプログラムを提供した。2014年度はより多くの被害者に提供するため、プログラムを届ける準備段階に入る。



モデル開発メンバー。コルカタシャンプドとSTCIのスタッフで構成される。本日も含めて熱く議論を交わした。



かものはしの役割は、優れたアイデアを発掘し 解決モデルとして確立→多くの被害者へ役立てること

限られた資源(人・資金)を活用し最大限の効果を出すために工夫をしている。まず、①調査を行い解決しなければならない課題の特定をした上で、②解決モデルの設計を行う。その後、③そのモデルを実際に試してみても修正する。そして④完成されたモデルを他地域に展開する。かものはしでは、特に①②③を集中して行い、多額の資金を必要とする④は他の財団等と協力しながら展開する。特に③のモデルの実績と修正を十分に成果の出るモデルへと発展させ、その再現性を高めることが重要だ。

日本事業

ファンドレイジング
広報・経営管理
(資金調達)



Japan

「フレンドレイジング(問題解決のための仲間集め)」活動によって、インド・カンボジアの活動を支えることができました。今後は、さらに仲間を増やすとともに、現地の子どもたち・女性たちと日本の支援者の皆さまとが「繋がる」場を作っていきます。

資金調達面では、前年度対比116%増となり、かものはし史上初めて1億円を達成することができました。そのことにより、インド・カンボジアの活動を当初の計画通りに支えることができました。また、「認定NPO法人の取得」や「NSR活動の推進」により団体の組織基盤強化をすることができました。

2013年度は 資金調達基盤・組織基盤ともに 成長することができました

2013年度はコミュニティファクトリー事業の「事業収入」を除く、日本での資金調達活動のみでかものはし史上初めて1億円を達成することができました。皆さまの温かいご支援に心よりお礼申し上げます。しかし、今後のインドでの問題解決を戦略的に進めていくには、今の延長線上での成長では十分ではないということも分かってまいりました。引き続き、安定した財源基盤を築きつつ、「あなたがうれしいとわたしもうれしい」のポリシーにそって、関わる方全員がよりHAPPYになる新しい参加のカタチをつくることに挑戦してまいります。

2013年度も、より多くの方に参加いただきやすいように、さまざまなイベントを企画し開催してまいりました。2012年度は21回だったのに対して、2013年度は約3倍の64回のイベントを開催し、今までお会いすることのできなかった方々にかものはしの活動を知っていただくことができました。

また、「CSR(企業の社会的責任)」のNPO版である「NSR(NPOの社会的責任)」活動を推進してまいりました。ISO26000にそって監査機能の強化や、各種規定の整備、環境保護活動などを全社的に行いました。社会の公器である自覚を持って引き続き、相応しい組織基盤を構築してまいります。

2014年度は 現地の子どもたち・女性たちと 日本の支援者の皆さまとが 「繋がる」場を作っていきます

2014年度は前年度対比128%増となる1億3千万円を目標に資金調達を行います。同時に支援者の皆さまとインド・カンボジア現地との距離を縮めるために、さまざまな取り組みに挑戦していきます。「フレンドレイジング」や「あなたがうれしいとわたしもうれしい」で謳っているように、仲間である皆さまにもよりHAPPYを感じていただけるようにすることで、インド・カンボジアでの挑戦をより支えていただきたいと考えています。

まずは、WEBサイトやソーシャルネットワークサービスを通じての活動報告や女性・子どもたちの様子をお伝えする仕組みを強化します。今後はテキスト(文字)情報だけでなく、動画なども交えて、より皆さまのご支援による成果をリアルタイムをもってお伝えするため、準備を進めていきます。

そして、現地で「女性・子どもの声」を聴いていることと同様に、日本では「支援者の皆さまの声」を聴かせていただく仕組みも強化します。日本の皆さまとの「繋がり」の強さが、かものはしとしての問題解決力の強さと直結しています。WEBサイトでのアンケートなどのご協力をお願いすることになりますので、その際はよろしくお願いたします!



第2回 エクセレントNPO大賞授賞式にて。スタッフやインターン生と受賞の瞬間をともに喜び合いました。次は大賞を目指します!

「エクセレントNPO大賞 組織力賞」を受賞しました

「エクセレントNPO」をめざそう市民会議主催、毎日新聞社共催の「第2回 エクセレントNPO大賞」の中で、「組織力賞」を受賞いたしました。

使命や目的の明確性、情報開示、意思決定機関、資金調達の透明性、支援の多様性などがバランスよく整っているということからその総合力を評価していただきました。その中でも、会費・寄付金の比率が高く、収入基盤が安定していることに対し高く評価されました。それは、いつも私たちの活動を支えてくださっている皆さまのおかげです。心から感謝申し上げます。本当にありがとうございます!

「認定NPO法人」になりました

所轄庁である東京都からの認定を受け、2014年4月1日より「認定NPO法人」となりました。これにより、寄付者やサポーター会員の皆さまには確定申告の際に税額控除を受けていただくことができます。認定NPO法人となるには、東京都から厳しい監査を受けることとなります。認定を受けたということは、これまでの団体運営が適切であったことを所轄庁に認めていただけたということでもあります。引き続き、皆さまに安心して活動に参加いただけるよう運営してまいります。



収支計算書 (2013年4月1日~2014年3月31日)

(単位:円)

科目(経常収支の部)	10期(2013年4月1日~2014年3月31日)			11期(2014年4月1日~2015年3月31日)			
	計画	実績	対計画達成率	計画	対前年度成長率		
I 経常収入の部	1 受取会費	正会員・賛助会員受取会費	57,709,000	59,016,340	102%	70,000,000	19%
	2 受取寄付金	受取寄付金	33,500,000	27,683,061	83%	35,704,500	29%
		受贈益			430,122		
	3 事業収入	(1)コミュニティファクトリー事業収入	32,729,000	25,103,011	77%	43,890,000	75%
		(2)スタディツアー事業収入	800,000	171,000	21%		
		(3)啓発事業収入	5,400,000	4,383,764	81%	3,860,000	-12%
	4 補助金等収入	民間助成金収入	14,000,000	6,533,712	47%	8,705,000	33%
		委託金収入		2,641,896		16,842,000	537%
	5 その他収入	利息収入		53,786			
		雑収入・為替差益	46,000	5,580,563	12132%	1,091,500	-80%
経常収入合計			144,184,000	131,597,255	91.3%	180,093,000	37%
II 経常支出の部	1 事業費	(1)コミュニティファクトリー事業費	42,050,000	37,235,344	88.6%	58,144,000	56%
		(2)カンボジア連携事業(警察支援・孤児院支援)	13,349,000	9,838,172	73.7%	8,160,000	-17%
		(3)インド事業費	37,121,000	24,314,977	65.5%	20,600,000	-15%
		(4)啓発事業費	31,775,000	28,033,140	88.2%	40,721,000	45%
		(5)スタディツアー事業費	518,000	272,541	52.6%		
	2 管理費	カンボジア事務局	8,983,000	9,587,489	106.7%	13,646,000	42%
インド事務局 日本事務局		18,670,000	21,337,253	114.3%	20,584,000		
経常支出合計			152,466,000	130,618,916	85.7%	182,202,000	39%
経常収支差額			-8,282,000	978,339		-2,109,000	
III 増減の部	法人税・住民税及び事業税			71,819		70,000	
	当期正味財産増減額		-8,282,000	906,520		-2,179,000	
	前期繰越正味財産額		64,202,636	64,202,636		65,109,156	1%
	次期繰越正味財産額		55,920,636	65,109,156	116.4%	62,930,156	-3%

貸借対照表 (2014年3月31日現在)

(単位:円)

科目	金額
1 流動資産	
現金預金	44,695,782
商品	2,814,039
製品	9,226,752
原材料	249,489
売掛金	59,160
短期貸付金	32,538
前払費用	2,073,014
流動資産合計	59,150,774
2 固定資産	
車両運搬具	800,939
建物	3,047,045
工具器具備品	1,143,655
土地使用権(カンボジア)	5,763,520
固定資産合計	10,755,159
3 投資その他の資産	
差入保証金	982,800
資産合計	70,888,733

(単位:円)

科目	金額
II 負債の部	
流動負債	
未払金	4,864,767
仮受金	253,260
預り金 職員に対する源泉所得税	661,550
流動負債合計	5,779,577
負債合計	5,779,577

科目	金額
III 正味の部	
前期繰越正味財産	64,202,636
当期正味財産増減額	906,520
正味財産合計	65,109,156
負債及び正味財産合計	70,888,733

監査報告書

特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
代表理事 村田 早耶香 殿

私は、2013年4月1日から2014年3月31日までの第10期の貸借対照表及び収支計算書(「実績」部分に限る。)について監査を行いました結果、会計帳簿と一致し、法人の財産及び収支の状況を正しく示していると認めます。

2014年5月19日
特定非営利活動法人かものはしプロジェクト

監事 樋口 哲 胡

かものはしを支えてくださった企業・団体の皆さま

 アサガミ株式会社	 ALSO ALSOKありがとう運動 (総合警備保障株式会社)	 MS&AD ゆにぞん Smile Club MS & AD ゆにぞんスマイルクラブ
 大阪リバーサイド ロータリークラブ	ジョンソン・エンド・ジョンソン 社会貢献委員会	 有限会社ゾロゾ
株式会社 タカゾノ	 帝國製薬株式会社	 公益財団法人 日工組社会安全財団
 公益財団法人 日本国際協力財団	 環境と平和のNPO ネットワーク「地球村」	 PARACUP 一般社団法人PARACUP
 VALLE BOOKS whole sale books and recycle books company. 株式会社バリューブックス	VGホールディングス 株式会社	 不動産の アジアグループ
 株式会社 Free Wing	Chloé リシュモンジャパン株式会社 クロエ	 一般社団法人 倫理研究所

アースリードアテイン株式会社 / IAC財産設計株式会社 / 株式会社アイム / 株式会社アイリスファーマ / 青山リアルティ・アドバイザーズ株式会社
アカマイ・テクノロジーズ合同会社有志一同 / アサヒグループホールディングス株式会社 / アサヒワンビールクラブ / 公益信託アドラ国際援助基金
池永経営会計税理士法人 / 株式会社伊藤事務所 / 有限会社イマクメディック / インフォテリア株式会社 / 特定非営利活動法人 WE21ジャパン・さいわい
株式会社エイチ・アイ・エス / 株式会社HRインスティテュート / 有限会社エル・アリス / 株式会社おぼうさんどっこむ / 柏木建設株式会社
神谷コーポレーション株式会社 / 川崎南ロータリークラブ / 株式会社キッツ / QPeace / 有限会社居宅介護支援事業所・愛101
公益財団法人公益推進協会 / 国際ソロプチミスト東京・東 / 株式会社シービーエム / 株式会社ジャクパ / 株式会社ジャクミンソフト
新日鉄住金エンジニアリング株式会社 / 住友生命保険相互会社 / 世田谷聖母幼稚園 / センチュリー法律事務所
有限会社ソーシャルベンチャーキャピタルアソシエーション / 損保ジャパンちきゅうくらぶ / 有限会社タカダ薬局 / 有限会社テニスピアジュエ
公益財団法人電通育英会 / 東京西ロータリークラブ / 東京ビジネスサービス株式会社 / トライアングル動物眼科診療室 / 株式会社トラストファーマシー
株式会社永屋 / 株式会社ナリング・クリエイティブ / 株式会社日建設計 / 日本興亜おもいやり倶楽部 / 一般社団法人日本弱酸性美容協会
日本電算機販売株式会社 / ハウジングスカイ株式会社 / ヒューマンズ・ネット株式会社 / 有限会社ヒロ薬品 / 株式会社ファンケル / 医療法人福智会
富士ゼロックス株式会社 / 富士ゼロックス 端数倶楽部 / プラス株式会社ジョイントテックスカンパニー / 株式会社古木企画 / 株式会社松尾商行
三丸興業株式会社 / 株式会社メディアエイク / 森屋建設株式会社 / 株式会社やさしい手 さいたま南 / 横浜南ロータリークラブ / 横浜ロータリークラブ
株式会社リアライズ / 株式会社リソ・トラスト / ロングブラックパートナーズ株式会社 / ワタベウェディング株式会社


※五十音順・敬称略 ※10万円以上のご支援をいただいている法人、団体のみなさまを掲載しております。


技術協力


特定非営利活動法人サービスグラント / サイカンパニー / 株式会社ジューリサーチ / 株式会社セールスフォース・ドットコム、social force、NPO法人ENPOWER
パナソニック株式会社 / 株式会社三井住友銀行 / 株式会社リアライズ


※五十音順・敬称略

報告書の制作に関わってくださった方々

 **ライティング**
永井 順子さん (フリーランスコピーライター、ライター)
日大芸術学部文芸学科卒。(株)リクルート、(有)イーを経て2004年よりフリーランスコピーライター、ライターに。2012年よりかものはしプロジェクトにプロボノ参加。

 **ライティング**
服部 牧夫さん (読売新聞社/記者)
東京工業大学。読売新聞記者として科学技術や医療取材する。学生時代にフィリピンの水環境を研究した経験から、途上国支援の思いを抱く。2012年よりプロボノに参画。

 **デザイン/制作ディレクション**
サイカンパニーさん (デザイン会社)
NPO・NGOの広報物をデザインする会社として、2012年に平田と生駒の2名で設立。現在3名になり、多くの団体のWEBサイトや冊子などのデザインを手がける。お問い合わせはこちら→hello@saicompany.jp

 **進行管理アシスタント**
竹内 しおり (かものはし/広報担当インターン)
2013年9月より日本事業部の大学生インターンとして参画。講演会業務を半年間経験した後、編集の仕事にも挑戦するため年次報告書の進捗管理アシスタントを担当。

この年次報告書は、
サポートしてくださっている
印刷会社のご協力により
無償で印刷して
いただきました。

団体名	認定特定非営利活動法人かものはしプロジェクト
住所	〒150-0012 東京都渋谷区広尾5-23-5 長谷部第一ビル402
TEL	03-6277-2419
E-mail	info@kamonohashi-project.net
twitter	@kamonohashiprj
facebook	kamonohashi project/かものはしプロジェクト
Webサイト	http://www.kamonohashi-project.net/

※かものはしプロジェクトは、被害者のプライバシーと意思を尊重し、被害者個人が特定される写真は使用いたしません。
また写真を使用する際は本人の許可をいただいております。